二〇二五年度　大妻中野中学校　第五回アドバンスト入試

（二月四日午前　問題用紙）

国語

座席番号	
	番

受験番号	
	番
	氏名

受験上の注意

（一）この問題用紙は表紙を含めて全部で十一ページあります。
（二）試験開始後ただちにページ数を確認してください。
（三）問題用紙、解答用紙それぞれに座席番号と受験番号と氏名を忘れずに記入してください。
　　座席番号と受験番号は算用数字で記入してください。
（四）試験時間は五十分です。
（五）解答はすべて解答用紙に記入してください。
（六）この試験は百点満点です。

一　次のA・Bの文章とグラフを読んで、あとの問いに答えなさい。（ただし、句読点や記号も一字に数えます。）

A

カズオは電車の中にいる。ロングシートの席に座って、さっきから［　A　］。

目の前に、二人のおばあさんが立っている。

席をゆずらなくちゃ ――。（　a　）、カズオが立ち上がっても、シートには一人分のスペースしか空かない。おばあさん二人のうち、座れるのは一人だけだ。

歳をとっているほうのおばあさんに声をかけようか。だけど、若く見えるおばあさんは大きな荷物を持っている。遠くの駅まで乗るほうに座ってもらおうと思っても、行き先なんてわからない。二人で話し合って決めればいい？そんなの、どうやってお願いすればいいんだろう……。

おばあさんたちは、怒っているかもしれない。それとも悲しんでいるのだろうか。カズオは二人と目が合うのが怖くて、うつむいてしまう。それだけでは足りずに、目もつぶった。座れるおばあさんと座れないおばあさんを分けてしまうのはよくないんだ、と自分に言い聞かせた。そんなの不公平だもの。座れないおばあさんがかわいそうだもの。だったら二人とも座れないほうがすっきりする……はずだ。

電車は走る。ガタゴトと揺れながら、走る。まわりのひとは、カズオのことを「やさしくない子ども」だと思っているかもしれない。ほんとうは違うのに。おばあさんが一人だけなら、すぐに席をゆずってあげたいのに。カズオは胸をドキドキさせたまま、ただじっと目をつぶって、眠ったふりをする。

タケシは電車の中にいる。ロングシートの席に座って、さっきから［　B　］。

（　b　）オレの前に立つんだよ。目の前にいるおじいさんに文句を言ってやりたい。

おじいさんは、タケシが席をゆずってくれるのを待っているように見える。いつまでたってもタケシが立ち上がらないからムッとしているようにも、見える。

そんなのヤだよ ――。（　c　）、オレもちゃんと切符を買って電車に乗ってるんだから。席に座る権利はある。絶対にある。おじいさんに「席をゆずってくれませんか」と頼まれたのならともかく、自分からその権利を捨てるなんて、おかしいじゃないか……。

吊革（つりかわ）につかまったおじいさんは、電車が揺れるたびに足をふらつかせて、倒れそうになる。席をゆずってあげたら、きっと喜ぶだろう。でも、電車の中には他にもたくさん座っているひとがいる。小学生のタケシより大きな子どもも、若者も、おとなも、席に座っている。タケシは、たまたま、おじいさんの前に座っているだけだ。なにも自分が席をゆずらなくても、誰かが立ち上がればいい。「目の前にいるひとが席をゆずること」という法律はないのだし、（　d　）「お年寄りには必ず席をゆずること」と決められているわけでもないのだから、タケシが席を立つ必要なんて、どこにもない……はずだ。

電車は走る。おじいさんは体を危なっかしく揺らしている。まわりのひとはタケシをちらちら見る。「おじいさんを座らせてあげなさい」と無言で伝えているのだろうか。だったら、そう思うひとが席をゆずればいいのに。みんな身勝手だ。ひきょうだ。タケシはくちびるを噛みしめたまま、本を読みはじめた。でも、同じ行を何度も読んだり、ページをとばしてめくったことにしばらく気づかなかったりして、①本の内容はちっとも頭に入ってこなかった。

ヒナコは電車の中にいる。ロングシートの席に座って、さっきからため息を何度も飲み込んで。
赤ちゃんを抱っこして、小さなおにいちゃんも連れたお母さんが、目の前に立っている。片手で赤ちゃんのお尻を支え、片手をおにいちゃんの手とつないで、吊革につかまることもできずに、両足をふんばって、なんとか体を支えている。
席をゆずってあげたい——。いつもなら、ためらうことなく立ち上がって、「ここ、どうぞ」と声をかけているはずだ。
でも、今日はダメ。悪いけど、今日はダメ。ごめんなさい。
頭が痛い。ちょっと気分も悪い。乗り物酔いをしてしまったようだし、背中がゾクゾクして寒けもするから、もしかしたら風邪をひきかけているのかもしれない。こんな体調で席をゆずったら、こっちが倒れてしまう。
お願い、許してください、と心の中で謝った。まわりのひとには頭痛も寒けもわからない。だから、わたしのことを「なんてひどい子どもなんだ」と思っているかもしれない、と想像するだけで、ヒナコは泣きそうになってしまう。
隣の席のおじさんが「どうぞ」とお母さんに席をゆずった。お母さんはホッとした様子で「ありがとうございます」とお礼を言って座った。よかった。ヒナコまでホッとした。
でも、お母さんと入れ替わりにヒナコの目の前に立ったおじさんは、小さく舌打ちをした。
怒ってる——？　わたしのことを——？
違うのに。わたしは席を「ゆずらなかった」のではなく、「ゆずりたくてもゆずれなかった」のに。お願い、わかってください。ノートに『わたしは具合が悪いんです』と書いて、看板みたいに持っていようか。そうすればみんなもわかってくれる。だけど、それも嘘だと思われたら……どうしよう……。
電車は走る。②ヒナコの降りる駅はまだずっと先だったが、次の駅で降りよう、と決めた。ホームのベンチに座って少し休もう。この電車には、もう乗っていたくない。ヒナコはうつむいた。まぶたが急に熱くなって、涙がぽとんと膝に落ちた。

サユリは電車の中にいる。ロングシートの席に座って、さっきからワクワクした胸の高鳴りをおさえて。
目の前に、松葉杖をついたおねえさんが立っている。骨折したのだろう、左脚に真新しいギプスをつけて、松葉杖を何度も握り直して、揺れる電車の中で立っているのは大変そうだ。
席をゆずろう——。生まれて初めてのことだ。両親や学校の先生に教わった「助け合いの心」を発揮するチャンスを、ずっと待っていた。ついに、やっと、そのときが訪れたのだ。
「あの……ここ、どうぞ！」
立ち上がって、おねえさんに声をかけた。やった。うまく言えた。にっこり笑うこともできた。
おねえさんは小さく会釈をして、座った。
それだけ——？
会釈のときに低い声でぼそっと「あ、どーも」と言ったきり、お礼の言葉も感激の笑顔もない。せっかく勇気を出してゆずってあげたのに、まるでそんなの当然のことだとでも言うように……いや、べつにどっちでもいいんだけど、というほうが近いだろうか。とにかくおねえさんは面倒くさそうに座って、イヤホンで音楽を聴きはじめたのだ。

がっかりした。感謝してくれないんだったら席をゆずらなきゃよかった、と思った。

あーあ、と吊革につかまっていたら、隣に立っていたおばさんが「えらいわねえ」と、にこにこ笑いながらほめてくれた。よかった。ちゃんとわかってくれるひとがいた。まわりのひともこっちを見ている。サユリは胸を張って言った。

「だって、困ってるひとやかわいそうなひとを助けてあげるのは当然のことです！」

おばさんは「そうね、そのとおりね」と――言ってくれなかった。にこにこと笑っていた顔が一瞬こわばったように見えた。まわりのひとたちが目をそらしていることにも気づいた。

どうしてほめてもらえなかったのか、サユリにはわからない。ただ、周囲の空気が急にどんよりと重くなって、なんともいえず居心地が悪くなっていた。

③もう、おばさんはサユリに声をかけてこない。おねえさんは音楽を聴きながら雑誌をめくっている。「この子にちゃんとお礼を言いなさいよ」とおばさんが言ってくれればいいのに。まわりのひとも、恩知らずのおねえさんを冷たい目で見てくれればいいのに。でも、なんだが逆に、サユリのほうがみんなに叱られているような気がしてしかたない。

なんで？ねえ、なんで――？

電車は走る。サユリは吊革を強く握りしめる。なにがなんだかわからないまま、さっきの一言をおねえさんに聞かれなくてよかったのかもしれないと、ふと思った。なぜそう思ったのかも、わからないまま、だったけれど。

ぼくたちは、みんな、電車の中にいる。④「世の中」という名前の電車に乗り合わせた乗客だ、ぼくたちは誰もが。

座っているひともいる。立っているひともいる。重い荷物を提げたひともいれば、身軽なひともいる。「わたしの正しさ」は、乗っているひとの数だけある。でも、それは必ずしも「ほかのひとの正しさ」とは一致しない。なんとなく決まっている「みんなの正しさ」（それを「常識」と呼ぶ）から、「それぞれの正しさ」がはみ出してしまうことだって、ある。

電車は走る。数え切れない「正しさ」は、すれ違ったりぶつかり合ったりしながら、電車に揺られている。床に転がって誰かに踏みつぶされてしまった「正しさ」も、きっとそこにはあるだろう。あなたの「正しさ」はどこにある？　そして、それは誰の「正しさ」と衝突して、誰の「正しさ」と手を取り合っているのだろう。

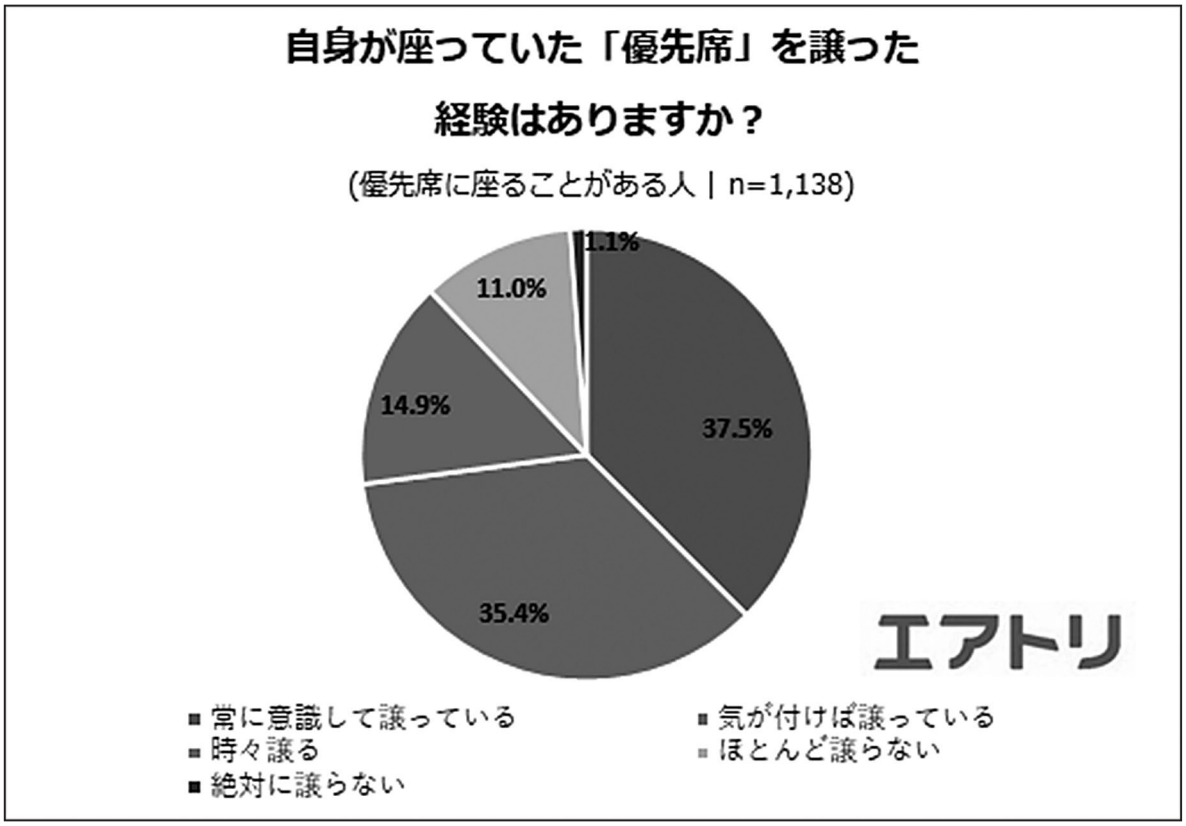
（重松清『きみの町で』新潮文庫による）

B

次の文章とグラフは、株式会社エアトリという旅行会社が交通機関の「優先席」についてアンケートを行った結果をまとめたものです。

■調査背景

公共交通機関・公共の場において用意されている「優先席」は、お年寄りや妊婦の方・お身体の不自由な方など、必要とする方がいる一方で、残念ながらモラルに欠ける様な行動をする人も見受けられます。そこで今回は「優先席」についてアンケート調査を行いました。



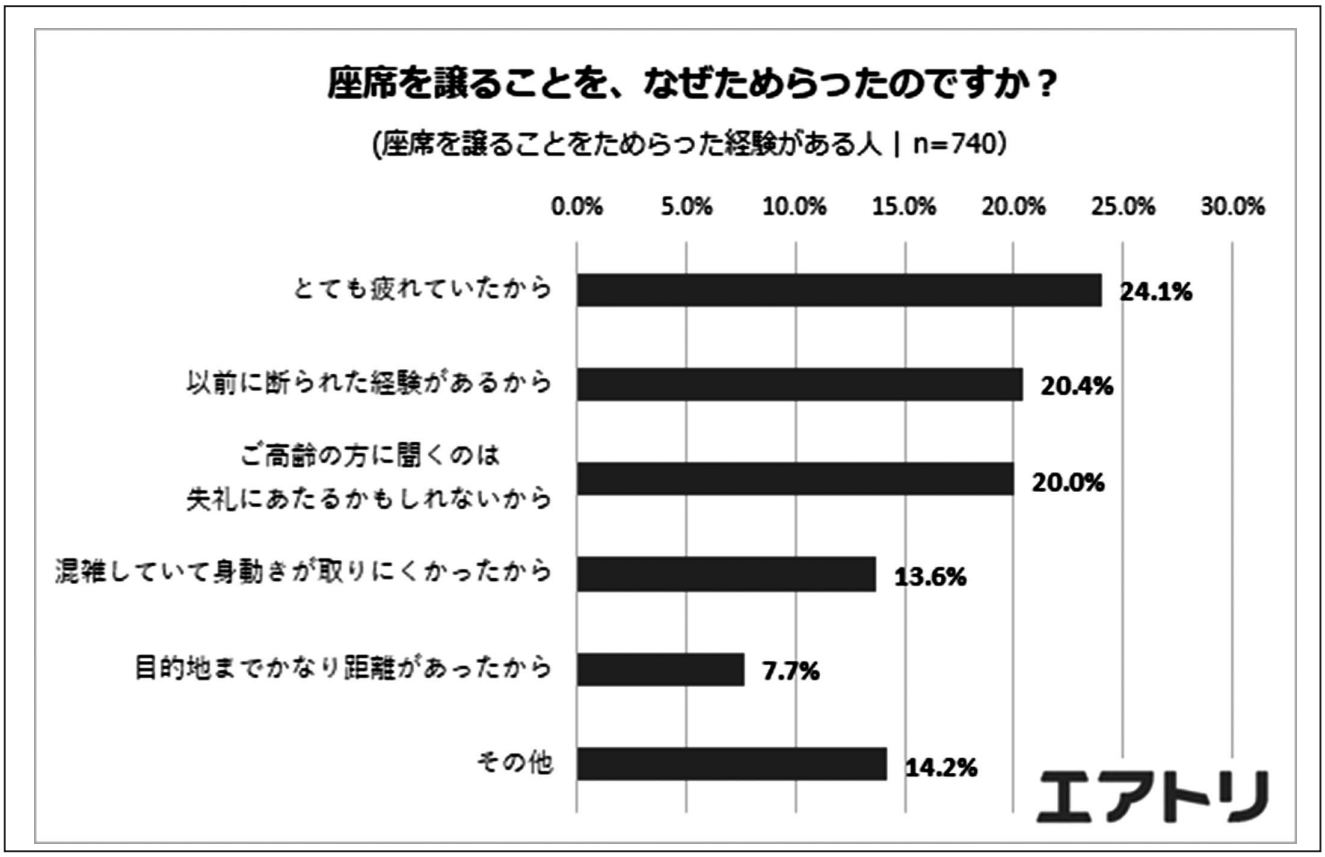
調査５：(優先席に座ることがある人)自身が座っていた「優先席」を譲った経験はありますか？

優先席に座ることがある人に、自身が座っていた「優先席」を譲った経験があるかを聞いたところ「常に意識して譲っている(37.5%)」、「気が付けば譲っている(35.4%)」、「時々譲る(14.9%)」と「譲る」と回答した人は合わせて87.8%となり、座ることがあっても気にかけている人が多くいることがわかった一方で、「ほとんど譲らない(11.0%)」、「絶対に譲らない(1.1%)」と⑤「譲らない」と回答した人は 12.1%でした。

調査６（グラフなし）：席を⑥譲ることをためらった経験はありますか？

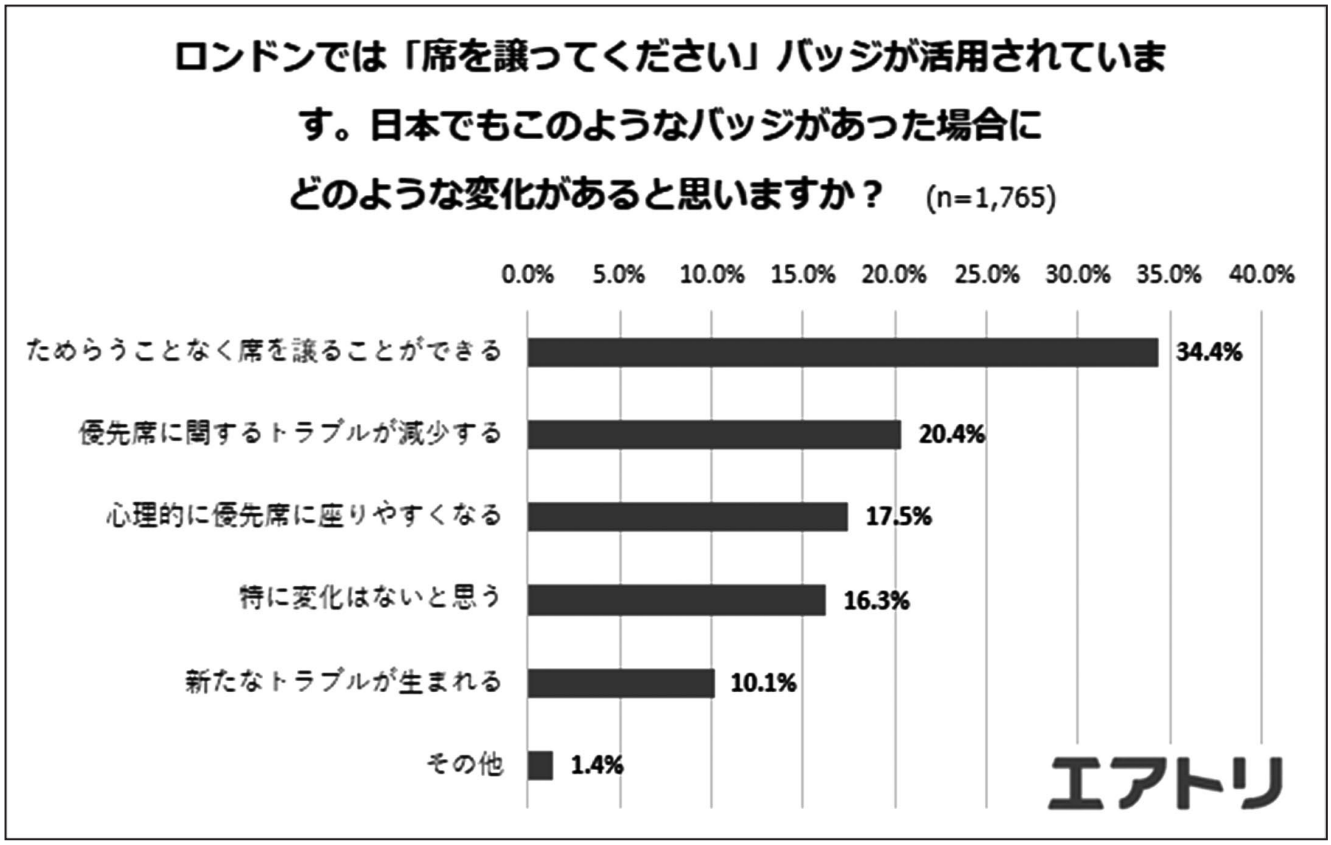
優先席を必要とする人に対して、譲ることをためらった経験が「ある」人は41.9%、「ない」人は 58.1%でした。

調査７：(座席を譲ることをためらった経験がある人)座席を譲ることを、なぜためらったのですか？



座席を譲ることをためらった理由のＴＯＰ３は、１位「とても疲れていたから(24.1%)」、２位「以前に断られた経験があるから(20.4%)」、３位「ご高齢の方に聞くのは失礼にあたるかもしれないから(20.0%)」となりました。

調査１０：ロンドンでは「席を譲ってください」バッジが活用されています。日本でもこのようなバッジがあった場合にどのような変化があると思いますか？



海外で活用されているような⑦〝席を譲ってください〟バッジが日本にあった場合、どのような変化があると思われるかを聞いたところ、「ためらうことなく席を譲ることができる(34.4%)」、「優先席に関するトラブルが減少する(20.4%)」、「心理的に優先席に座りやすくなる(17.5%)」の回答順になりました。

(https://www.airtrip-intl.com/news/2022/4065/)　より引用

問一 [A]、[B]にあてはまる語句を次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア．足をブラブラさせて　イ．胸をドキドキさせて　ウ．まぶたをスッと閉じて　エ．くちびるをキュッと噛(か)みしめて

問二 （ a ）～（ d ）にあてはまる最もふさわしい語を次のア～オの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア．そもそも　イ．どうして　ウ．だから　エ．だって　オ．でも

問三 ――部①「本の内容はちっとも頭に入ってこなかった」とありますが、なぜですか。次のア～エの中から最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア．周りの人に、今自分がどう思われているのかが気になって仕方がないから。
イ．今からでもおじいさんに席をゆずるべきかと思い、タイミングを測っているから。
ウ．席をゆずるべきという決まりは無いということに、確信を持てなかったから。
エ．ふらふらと倒れそうになるおじいさんを見て、自分に責任を感じていたから。

問四 ――部②「ヒナコの降りる駅はまだずっと先だったが、次の駅で降りよう」とありますが、こう決めたのはなぜですか。最もふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア．これ以上まわりの人の冷たい視線を受けていたら、さらに具合が悪くなってしまうから。
イ．ゆずってあげたいけどゆずれないという自分の状況を、分かってもらえないことに納得がいかないから。
ウ．自分の体調の悪さや本当はゆずりたいと思っていたことを誰も理解してくれないことにいたたまれなくなったから。
エ．体調を整えることさえできれば、席をゆずることができる人間なのだと自分で分かっているから。

問五 ――部③「もう、おばさんはサユリに声をかけてこない」とありますが、この時のおばさんの心情を説明したものとして最もふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア．自分からサユリに伝えたいことは伝え終わっており、周りの反応は気にならない。
イ．サユリの発言に対して冷たい反応を示す周囲のおとなに対して、少し腹立たしく思っている。
ウ．サユリの言葉が席をゆずられたおねえさんにとって失礼なものだったので、気まずくなっている。
エ．おねえさんにお礼を言われたいと願うサユリの本心がすけて見えて、がっかりしている。

問六　――部④「『世の中』という名前の電車」とありますが、電車のどのような所が「世の中」とたとえられているのでしょうか。本文中の語句を用いて四十字以内で答えなさい。

問七　――部⑤「『譲らない』と回答した人」とありますが、小説内でこれにあたる人は四人のうち誰ですか。カタカナで、登場人物名を答えなさい。

問八　――部⑥「譲ることをためらった」とありますが、小説内でこれにあたる人は四人のうち誰ですか。カタカナで、登場人物名を答えなさい。

問九　調査5と調査6の結果から読み取れることとして正しいものを、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア．優先席に座ってはいけないと考えている人は、全体の一割程度しかいない。
イ．優先席に座ることがある人の中でも、席をゆずる意識を持つ人が大半を占めている。
ウ．常に意識して席をゆずっている人の中でも、ゆずることをためらった人が4割ほどいる。
エ．ゆずることをためらわない人の中には、ゆずらないと決めているという意味で答えている人も10％以上いる。

問十　調査7と調査10の結果から読み取れることとして正しいものを、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア．ゆずる側よりも、立っている人が席を必要としているかどうかという問題の方が、ためらう理由として多数を占めている。
イ．バッジがあれば、バッジを持つ人が来るまで気にせず座っていられるので、身体的に楽になることが予測される。
ウ．ゆずる側とゆずられる側、それぞれの思いやりや配慮の問題なので、バッジが良い解決策とは言えない。
エ．バッジがあっても席をゆずる難しさが解決しないとか、新たな問題が起こると考えている人が、四人に一人以上の割合でいる。

問十一　――部⑦「〝席を譲ってください〟バッジが日本にあった場合」とありますが、この場合、小説内で誰が救われると考えられますか。その登場人物名と、そう考えた理由を四十字以内で答えなさい。

二　次の各問いに答えなさい。

A　漢字に関する問題

問一　ばらばらになった漢字を合わせてできた二字の熟語を答えなさい。

例：言　立　売　日　　答：音読

① 日　寺　言　十
② 糸　羽　東　白
③ 立　木　子　見
④ 十　十　月　日　日

問二　次の――部について、カタカナを漢字に直しなさい。

① 同じシセイでいると腰が痛くなる。
② 国会でヨサンを決める。
③ 日曜日に運動場をカイホウする。
④ 列をギャクリュウして進む。

B　ことわざ・四字熟語・慣用句に関する問題

問三　次の各文中のことわざ・四字熟語・慣用句を完成させるように【A　】には生きもの、（B　）には体の一部をそれぞれ漢字一字で答えなさい。※の後は、そのことばの意味を表しています。

(1)【 A 】の（ B ）も借りたい。　※いそがしい様子

(2)【 A 】の（ B ）に念仏。　※いくら言っても効き目がないこと

(3) 飼い【 A 】に（ B ）をかまれる。　※面倒をみてきた相手に裏切られること

（4）【　A　】（　B　）狗肉。　※見かけや表面と中身が一致しないこと

（5）（　B　）の【　A　】がおさまらない。　※怒りがこみあげてくること

C　文法・言葉遣いに関する問題

問四　次の①②の――部と言葉の働きが同じものを、次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

①　あの人はめったに感情を表に出さない。

ア．質問されたが、何も返答できない。
イ．花の命ははかないものである。
ウ．この虫を日本で見られることはほとんどない。
エ．今日は思ったほど寒くない。

②　においをかいで、食べられるかどうか判断する。

ア．雨が降ってきたので、雨宿りをする。
イ．歯みがきをした後で、顔を洗う。
ウ．ドアに指をはさんでしまった。
エ．タクシーで空港まで向かった。

問五　次の③④の文を、（　　）内の指示の通りに書きかえなさい。

③　おそらく、この本はあなたには難しいのではないかと思う。　（→確実なことだと伝わる形に直す）

④　そんな物をあげても、あの人は絶対に喜ばないよ。　（→相手を傷つけない言い方に直す）

問題は以上です。